

2025年7月度 J.フロントリテイリング 百貨店事業 売上速報

※当社は2017年度から国際会計基準（IFRS）を任意適用しています。なお百貨店事業の店舗別売上高につきましては、IFRS売上収益のうち消化仕入取引を総額に置き換えた総額売上高で開示します。

※数値は速報値のため、毎月中旬に発表している確定報とは誤差が生じることがあります。

※百貨店事業以外の事業も含めた連結ベースによる売上収益報告につきましては、IFRSの確定値により毎月中旬に開示します。

■ 店舗別売上高対前年増減率（％）

店舗	7月度	上期累計	店舗	7月度	上期累計
大丸 心斎橋店	▲4.9	▲7.9	松坂屋 名古屋店	2.1	▲0.3
大丸 梅田店	8.4	10.0	松坂屋 上野店	▲7.0	▲1.0
大丸 東京店	▲1.5	▲4.5	松坂屋 静岡店	▲0.3	0.5
大丸 京都店	▲12.8	▲13.8	松坂屋 高槻店	0.1	▲1.5
大丸 神戸店	▲2.0	▲1.2	店 計	▲2.4	▲3.1
大丸 須磨店	9.8	▲0.8	法人・本社等	46.8	38.2
大丸 芦屋店	18.8	4.6	大丸松坂屋百貨店合計	▲0.6	▲1.4
大丸 札幌店	▲6.6	▲1.6	博多大丸	▲17.7	▲20.0
大丸 下関店	▲7.9	▲9.4	高知大丸	▲12.0	▲4.0
			百貨店事業合計	▲2.0	▲2.8

■ 概 況

- ・ 7月度の売上高は、外商売上が好調に推移し、美術、時計などが前年実績を上回ったものの、クリアランスセールの上売が縮小したことや、訪日外国人売上が前年実績を大きく下回ったことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲0.6%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同▲2.0%減となった。
- ・ 店舗別では、15店舗中5店舗が前年を上回った。免税売上が好調な梅田店のほか、名古屋店が改装効果などにより対前年プラスとなった。
- ・ 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高（速報値）は、化粧品を中心とした消耗品が対前年プラスとなったものの、ラグジュアリーブランドなどを含む一般品が前年を下回るなど客単価の低下により、対前年▲30.1%減（客数同▲3.1%減、客単価同▲27.8%減）となった。

【参考】 7月度の大丸松坂屋百貨店の店計売上（法人・本社等の本年・前年実績を除く）は対前年▲2.4%減、

うち国内売上高（免税売上高の本年・前年実績を除く）は対前年3.3%増となった。

大丸松坂屋百貨店合計（既存店）の免税売上高は対19年度、50.5%増、対18年度69.7%増であった。

お問い合わせ先	J.フロントリテイリング株式会社	コーポレートコミュニケーション室
	IR推進担当	03-6865-7621
	グループ広報担当	03-6865-7616